

# “万死に値する” 消防本部の集団パワハラ事件

すでに報道等でご存知とは思いますが、糸島市消防本部内で、7年間にわたり消防職員13名が同僚職員約30名に対して暴行・暴言などのイジメを繰り返していた事件について、市は昨年7月に告発の文書を受け調査に乗り出しましたが、戦慄を覚える内容です。

若手職員に対して

- 酸素ボンベ（13kg）を両手に2本の指だけで持たせて延々と走らせる。力尽きて動かなくなった職員をなじり、笑って携帯電話の動画に撮る。
- トレーニングと称して、熱中症や酸欠で倒れまでしごく。
- 日常的に殴る・蹴るの暴力を加える。
- 部下にサービス残業をさせ、自分だけは残業をつける。
- 床に2時間以上正座させ「死ね・ぶっ殺すぞ」などの暴言を吐く。

また上司に対しても

- 執拗かつ公然と「ボンクラ・ポンコツ」などの誹謗中傷を繰り返す。
- 上司の面前でも堂々と、喫煙室などで長時間雑談にふける。
- 自分の上司に対して「仕事が出来なければ、係長を降りるか仕事を辞めろ」と退職を迫るなど、一般の社会常識では到底考えられない実態です。

この加害者13名に対しては、課長補佐（45）分限免職。係長（43）懲戒免職。主任3名に対し懲戒停職6ヶ月。課長1名を懲戒停職3ヶ月。5名に対して懲戒戒告。他の2名に対して文書訓告。管理職5名も懲戒処分としました。

“人命を守る”という熱い想いで入所した若手職員や、被害を受けて退職した3名の若者に対して申し訳ない。退職した職員に対しては復職を促すと言いますが、心の傷も深く加害者がいる職場に素直に復帰できるか懸念します。

長期間に渡りこれだけの集団的イジメがあったのですから、徹底的に膿を出さないと体質は変わらないと思います。特に気づいていたにも関わらず市にも報告せず、放置してきた消防上層部は“万死に値する”。処分が甘いと私は考えます。

## 『失敗の本質』 -日本軍の組織論的研究-

1991年に出版され、今も読まれ続けている『失敗の本質』を読むと、行政や会社を含め、組織は本質的に変わっていないのではと感じる。本当は間違っているのではと感じつつも言い出せない“その場の空気”。集団浅慮、目的意識の欠如、手段と目標の転倒など。市も議会も、多くの市民の皆さんが“ああ、糸島に住んでよかった”と感じられるまちを目指しているのではないのか。

**組織はすべてトップ次第。**もっと本音で語り、意見をぶつけ合う自由な風土が欠如している。これを打開するには、トップの覚悟と強いリーダーシップの必要性を強く感じた3月議会である。

# 伊都国 21

糸島市波多江駅北3-21-18  
電話 092-332-9118  
http:mishima-hideyuki.jp  
三嶋ひでゆき



糸島市議会議員

## 当事者意識がまったく感じられない月形市長 『玄海原発の再稼働』に毅然とした態度を！

報道各社が、玄海原発のUPZ圏内（30km内）の自治体首長に対して、アンケート調査を行なっています。『原発再稼働に“賛成ですか”“反対ですか”』との問いに、伊万里市や杵岐の市長は「再稼働に反対」。松浦市や唐津の市長は「事故が起こった時のリスクが高く地元自治体である。同じ扱いをして欲しい」答えています。

糸島市の月形市長は“どちらとも言えない”を選択。その理由は『国の考え方として原発が必要と判断される以上、それに即した対応を進めなければならない』と

国・他人まかせの答えをしています。

平成 29.3.20 朝日新聞

九州電力玄海原発3、4号機（佐賀県玄海町）の再稼働を巡る山口祥義知事と県内市町長の意見交換会が18日、佐賀市内で開かれた。条件付きで再稼働に賛成する意見が相次ぐなか、九電が同意を求める「地

元」に30km圏に含まれる福岡、長崎両県を加えるべきだとする声もあった。嬉野市の谷口太一郎市長は「（福岡第一原発の）原子炉で何が起きたのか分からない状態だ。再稼働は絶対やめてほしい。原発は即

「福岡・長崎の同意も」

玄海再稼働 佐賀知事に県内首長

『地元自治体の範囲を、どう設定すべきとお考えですか』との問いに対して、市長は“その他”を選択。その理由は『原発の再稼働について、法律上特に定めがない。まずは立地自治体の意向を尊重されるべき』と回答しています。

これだと立地自治体（玄海町・佐賀県）が再稼働賛成と言えれば“しかたがないね”と言っているのと同じで、まるで**他人事**のような回答です。

他の首長は『我々の立場や仕組みを明確にして欲しい』と意見を言っています。市民の安全・安心を守る糸島市長としてどう思われますか？

廃止だ」と述べた。玄海原発の30km圏は長崎、福岡両県を含む3県8市町にまたがる。太良町の岩島正昭町長は地元同意の範囲について「福岡県、長崎県まで入れてほしい」と注文を付けた。伊万里市の塚部芳和市長は「首長はエネルギー政策に追随するより、住民の不安に寄り添うべきだ」と改めて反対を表明。30km圏にある長崎県松浦市の友田郁洋市長は「玄海町と佐賀県だけで判断して我々は蚊帳の外でいいのか」と話しているとした。避難計画の拡充などを条件に再稼働を容認する意見も相次いだ。再稼働に容認姿勢の山口知事は「出していた課題を整理し、しっかりと判断したい」と述べるにとどめた。玄海町は7日に再稼働同意を表明。地元同意の手続きは県議会と知事の判断を残すのみとなっている。

一般質問とは：議員が執行部に対して疑問点を投げかけ説明を求めるもので、政治姿勢や責任を明確にし、政策の変更・是正、新規政策の採用を要求するなどが目的。

## 玄海原発再稼働に対する市の見解

質問：立地県である佐賀県は九電に対して核燃料税を賦課し、伊万里市と唐津市に原発停止時に7,500万円、フル稼働時に1億5,000万円を交付している。

同じUPZ圏内の糸島市は“事故のリスクばかり背負わされ、何も意見も言えず、費用も自腹で不公平な扱いをされている”と思うが、なぜ国に対して直接、強く要求されないのか？

答弁：福岡県の市長会を通じて国に要望中で、糸島市独自で要望することは考えておりません。

質問：交渉ごとは立場を明確にしないと相手にされず、有利に進められません。

『なぜ原発の再稼働に対し、賛成か反対か明確な態度を示されないのか！』

市長：いろいろな状況を踏まえ、市民の意見を聞きながら今後判断します。



市民の意見をいつ聞くのか？ 3/23の原発説明会でも明言を避け、住民投票を行う気も全くないのにその場しのぎの言い訳ばかり。今、判断せずにいつ判断するのか！市長の第一の使命は『市民の安心と安全を守る』ことです。『決断』することがリーダーの最も重要な仕事であるにもかかわらず、当事者意識がまったく感じられない。

## 市内商工業の活性化と定住促進

質問：昨年の9月議会の柳議員の“プレミアム商品券発行事業”の一般質問に対して大型店に消費者が流れている（換金率の41.8%）。加盟店アンケートでも、4社に3社は「効果がなかった」と答えられているにもかかわらず、なぜ今回予算を計上したのか？

答弁：“プレミアム商品券”は来店のきっかけ作りですが、商工会からの強い要望があり、“真に小規模事業者の経営基盤強化につながるよう努力する”事を条件に予算を計上しました。

質問：市は27年1月より、糸島市で住宅を建築もしくは取得した場合に、建物の固定資産税相当額3年分を“マイホーム取得奨励金”として、商工課会員の店で使える商品券（1件平均：57,400円×3年間）を配布しています。

この事業目的は“定住促進”だが、他市に住もうか？糸島市に住もうか？と悩まれた時の“動機づけ”になっているとお考えでしょうか？

答弁：“動機づけ”になって、効果が上がっていると判断しています。

質問：今回質問するにあたり、市内の建設・宅建業者を数社訪問し“マイホーム取得奨励金”の効果について質問しましたが、「ああそうですか」との反応が大半。誰だってもらった方が喜ばれますが、それが“糸島市に住む動機づけ”にはなっていないとの意見が多かった。

この事業に市は7年間で約5億円の予算を使います。これは定住促進策というよりも、形を変えた地域経済振興・商工会への補助金ではないのか？

もっと効果的な予算の使い道があるのではない。

答弁：今回、申請書を送付する時に“糸島市に住む動機づけ”になったかどうかアンケート調査を行い、検証してまいります。

『魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ』の諺があります。“補助金は麻薬”一度始めたらなかなか辞められず、それをあてにして自助努力がおろそかになりがちです。

私は頑張っている事業者に対して、新製品開発や販路拡大の支援はどんどんやるべきだと考えております。皆さんから預かった大切な税金の使い道については、今後もしっかり検証してまいります。

詳しくご覧になりたい方は、糸島市議会中継 → 録画映像をみる → 3/13一般質問 → 三嶋栄幸で検索して下さい。



## 29年度糸島市当初予算の主な概要

H29年度の当初予算の一般会計・特別会計・企業会計を合わせた予算総額669億円（前年比0.6%）が3月議会にて可決されました。主な予算としては

- 小中学校のすべての普通教室にエアコン設置  
近年の猛暑、熱中症対策として、昨年予算で補助金がつかず見送られていたエアコン設置が、本年度中に行なわれることになりました。
- 波多江小、前原南小のトイレがすべて洋式に  
古くて和式だった波多江小と前原南小のトイレを、すべて洋式トイレへ改修します。また、危険な状態だった波多江小の外壁改修工事も実施される予定です。
- 波多江駅の南側通路の整備  
通路が長く登り下りが大変だった、駅南からの自由通路にエレベーターを設置。通路も最短で改札口に行けるよう平成29年・28年度に整備が決定。

『六曜は迷信』 火葬場の友引休日の廃止。

「友引、仏滅、大安」などの「六曜」は、何ら根拠のない迷信であることから、糸島市斎場の友引休業が廃止されます。現在、県内施設で友引をすべて休業しているのは糸島市だけです。市民ニーズや価値観の多様化もあり「友引」に対する意識も変わってきていますので、ご理解をお願いします。